

民主青年新聞

DEMOCRATIC YOUTH NEWSPAPER

みどころ

薬物乱用の危険性

新連載 今こそ輝かせる日本国憲法

気候危機のストップを—IPCC報告書から

6、7面

3面

10、11面

▶ ホームページ www.dylj.or.jp ▶ Eメール minsin@dylj.or.jp



▲「徴兵制はいらない」とうったえながら行進する学生たち（3月5日、ベルリン、吉本博美撮影）

ドイツではこの間、メルツ政権の主導する新たな兵役法に反対する学校ストライキが全国的に行われています。10代の学生たちが街頭にもくり出し、「私たちは軍隊に行かない」と声を上げています。軍拡で物事を解決しようという「歴史の逆流」が強まりを見せる欧州の中で、行動を起こすドイツの学生たちの思いを伝えます。
(写真はすべて「しんぶん赤旗」提供、塩田悠玄記者)

欧州に希望与える「歴史の本流」

130都市でストライキ

ストライキに参加している学生たちは、昨年12月にドイツの連邦議会が可決した「兵役近代化法」に反対し、「兵役近代化法」に反対者には体格や障害の有無、入隊希望などを尋ねる質問票を1月から送付しています。男性には回答を義務づけるが、虚偽申告や無回答の場合には罰則が伴います。2027年からは、18歳以上の男性の身体・適性検査も義務になります。

背景にはウクライナ侵略

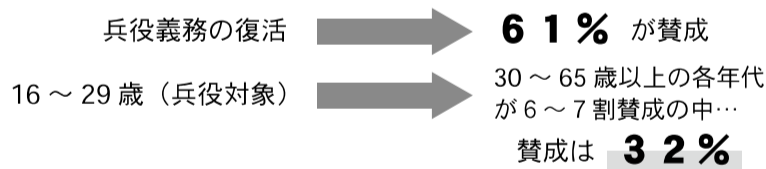
徴兵への地ならしともいえる今回の新法成立の背景には、2022年に始まったロシアによるウクライナ侵略に端を発する軍拡がありました。ドイツは第2次世界大戦で侵略国となった教訓から、軍備拡張に消極的な方針を維持してきました。メルツ首相は、昨年5月に「ドイツ軍を欧州最強の軍隊にする」と宣言しましたが、実際に戦場に行かされる可能性が高い世代の間では、兵役義務の再開に反対する声が強まっています。

世論調査 青年層は反対が多い

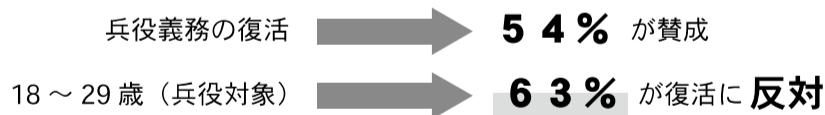
「徴兵制はいらない」声上げるドイツの学生たち

兵役義務に関するドイツ国民の反応

ドイツ公共放送局・中部ドイツ放送 (MDR) (2024年5月)



世論調査会社 Forsa (2025年10月)



WEBサイト テレ朝NEWS「ワイド!スクランブル」(2025年12月3日)などを基に作成

ドイツは第2次世界大戦で侵略国となった教訓から、軍備拡張に消極的な方針を維持してきました。メルツ首相は、昨年5月に「ドイツ軍を欧州最強の軍隊にする」と宣言しましたが、実際に戦場に行かされる可能性が高い世代の間では、兵役義務の再開に反対する声が強まっています。ドイツは第2次世界大戦で侵略国となった教訓から、軍備拡張に消極的な方針を維持してきました。メルツ首相は、昨年5月に「ドイツ軍を欧州最強の軍隊にする」と宣言しましたが、実際に戦場に行かされる可能性が高い世代の間では、兵役義務の再開に反対する声が強まっています。